
革命の恋

早蕨 胡乃

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

革命の恋

【Nコード】

N5861E

【作者名】

早蕨 胡乃

【あらすじ】

花より男子ファイナルのその後の優紀と西門を描きます。西門が出したエッセイ集第2弾。そこに書かれていた言葉とは・・・

(前書き)

花より男子映画版の二次創作です。

作者は原作を読んだことがない上に、ドラマもささっと見ただけなのでイメージと違うことが多々あるかもしれません。ご了承ください。

道明寺とつくしの間に、子供が誕生して数年。

F4やその関係者は、それぞれの人生を適当な距離を置きながら歩んでいた。

私も、あいもかわらずの日常を送っている。

西門さんは、茶道の家元としての日々に加えて、「多角的な活動」とやらで世界を飛び回っている。

ついこの間も何冊めかのエッセイ集を出版した。

題名は「一期一会の恋」。

今までの女性遍歴を華麗に綴った一冊だそうだ。

もちろん、その中に私の名はない。

でも、もちろんその本を私はまたまた購入した。

その、サイン会があった夜遅く。

つくしから、電話が入った。

「優紀。西門さんの新刊、もう読んだ!？」

「ううん。まだ。今日は時間がなくて、目次に眼を通したくらい。

・・・何か、あった?」

つくしの声は弾んでいた。

悪いことではないらしい。

でも、目次を読んだ限りでは、特に何か目新しい話題はないようだったけど。

私と西門さんの間には、ここ数年何も変わらない日々が続いていた。私が西門さんを追いかけて、西門さんが逃げていく。私がそれをまた、追いかけて・・・
時々、お茶しておしゃべりして、つくしやF4の面々とたまに会ったり。

私もまだ、茶道を続けているから、たまに手伝いを頼まれたり。

何も進展しなければ、かといって、疎遠でもない。

たぶん、自惚れでなければ、恋人とお母さんの次にここ数年の西門さんを良く知っている女性は、私かもしれない。

今日も、サイン会でにっこり本を差し出すと、西門さんは苦笑してから脱兎のごとく駆け出した。

もちろん、私も追いかける。

そのあと、結局、お茶をして、つくしの子供の話題で盛り上がり、夜までずっと一緒だったのだ。

「だから、まだ読んでないんだけど。」

「むふふ。そうかー。じゃあねえ。」

つくしは意味ありげな含み笑いをした。

「後書きだけ先に読んでみて。」

「はあ？」

「後書きだけって、本文読まないで？」

「そう。早く、読んでね。いますぐ。」

そういうと、つくしはさっさと電話を切ってしまった。

訳が分からない。

本文読まないで、後書きだけ読めって、そんなの西門さんに失礼だし。

そんなことを思いながら、私は本のページを開いた。

真新しい紙の匂いが、何故か茶室を思い出させた。

『 あとがき

この本は、俺の恋の話だ。

ここ数年で出会い、別れた全ての女性のことについて、ありのままを書いた。

一期一会。

俺が人生で最も大切にしている言葉。

恋においても、俺はこの言葉が全てだと思っている。

だが、一人だけ、この数年俺と関わりがあったのにこの本に登場していない女性がいる。

恋人ではないので、登場するはずもないのだが。

彼女は、俺の恋に革命を起こしてくれた貴重な人間だ。

一期一会の恋を、一期一会と気付かぬまま、成就できなくて引きずっていた俺に、引導を渡してくれた。

そのおかげで、俺はまた一步を踏み出せた。

彼女には心の底から感謝している。が、彼女の想いには応えられずにここまでできている。

いや、実を言わずと彼女から逃げ続けている。

俺が逃げるからか、彼女はいまや一步間違えばストーカーと言う状態だ。

時間が合えば、俺の行く先々に現れて、そして、俺はそこから逃げるという繰り返しだ。

傍から見れば変な関係だが、俺は何だかそれが妙に気に入っている。恋は、一期一会だ。

俺の持論は変わらない。

でも、彼女なら。

俺の恋に革命を起こしてくれた彼女なら。

一期一会なんて運命を飛び越して、というよりブチ壊して、何度でも俺のところに戻りついてくれそう、そんな確信がある。

だから、俺は逃げ続けるのかもしれない。どこまで、彼女が一期一会に逆らい続けてくれるのか。それを見続けていたいから。

恋じゃない。

愛でもない。

運命とか時間とかそんなものを越えたところに、俺達の間にはあるのかもしれない。

俺と彼女がこれから行き着く先は分からない。

けれどきつと、彼女はずっと俺の人生に革命を起こし続けてくれる
だろう。

一期一会という運命をもともせず。

他人はそれを「運命の恋」と呼ぶのかもしれないが・・・俺はきつ
とこう呼ぶのかも知れない。

「革命の恋」

『

そんな後書きを書いて、私の呼吸を止めた西門さんは、また数年後
本を出した。
題名は。

『革命の、恋。』

(後書き)

その後の二人は、どうなったのでしょうか？

たぶん、思わせぶりなタイトルとは裏腹に死ぬまで今の追いかけて
ここを続けているような気がします。(^^)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5861e/>

革命の恋

2010年11月22日16時25分発行